

平成 24 年度事業報告書

総括概要

十勝・帯広は、平成 23 年 12 月に「北海道フード・コンプレックス国際戦略総合特別区域」として国際戦略総合特区に指定された以降、引き続き「フードバレーとかち」を旗印としてアジアの食と農林漁業の集積拠点を目指して、産業の振興に十勝地域全体が一体となって取り組んでいます。

当財団は、道立十勝圏地域食品加工技術センターと十勝産業振興センターの機能を軸とし、これまでの取り組みや成果を踏まえ、これらと連動した産業支援を実施してきたところです。また、平成 24 年 3 月に当財団の「産業活性化ビジョン」（平成 24 年度～平成 28 年度）を策定し、平成 24 年度はその一年目として「ものづくり支援」と「地域連携支援」を両輪とした事業展開を実施してまいりました。さらに、公益法人制度改革に伴い、当財団におきましても、様々な検討や機関決定、手続きを経て、平成 25 年 3 月に北海道知事より公益財団法人移行認定を受けたところであります。

はじめに、「ものづくり支援」においては、地域ニーズの的確な把握に努め、企業相談や人材養成、食分野の研究課題、工業系研究課題の把握や解決に取り組み、それらの成果を地域に還元してまいりました。また、当財団の支援により商品化された商品や安全・安心で質の良い十勝産商品の販路開拓についても、物産振興や観光振興を担う機関と連携しながら支援をしてまいりました。これらの支援とともに、「フードバレーとかち」の浸透による食関連企業の商品開発意欲の高まり、さらには、これまで実施してきた様々な企業・団体等に対する当財団の事業内容の PR 普及効果により、技術相談・技術指導件数は前年実績を上回り、商品化へ繋がった事例を多く残すことができました。

次に、「地域連携支援」においては、国の機関や公益団体からの補助や委託を受け各種事業を実施するなかで、産学官連携によるアグリバイオクラスターの形成促進や食に関する人材育成、十勝産小麦の加工特性、農業機械開発等に関する研究をすすめてきたほか、「十勝ブランド認証機構」の取り組みにおいては、「ナチュラルチーズ」「パン」「お菓子」に次ぐ第 4 の品目についての調査・検討をすすめてまいりました。特に、文部科学省「地域イノベーション戦略支援プログラム事業（ABC プロジェクト）」における「元気食構想」等の普及のために道内ばかりではなく、道外においても PR の場を設けることにより、具体的な成果（商品化）を数多く挙げることができました。

事業概要

1. 会議の開催状況（評議員会・理事会・行政特別委員会等）

財団事業の実施方針や地域産業の複合化に関する事業化、公益財団法人への移行等の協議を実施した。

(1) 評議員会・理事会

平成 24 年 6 月 21 日 第 1 回評議員会・理事会の開催
平成 23 年度事業報告及び収支決算認定
平成 24 年度事業予算の変更（補正）
役員の補充選任
公益財団法人移行に係る定款・規則
公益財団法人移行後の理事・監事の選任結果
公益財団法人移行後の最初の評議員の選任結果

平成 24 年 9 月 24 日 第 2 回評議員会・理事会の開催
理事の補充選任
公益財団法人移行後の最初の評議員の補充選任結果
公益財団法人移行に係る認定申請

平成 25 年 3 月 21 日 第 3 回評議員会・理事会の開催
公益財団法人移行の状況報告
平成 24 年度事業補正予算
平成 24 年度事業経過報告
平成 25 年度事業計画・事業予算
規則・規程の見直し
資産運用状況

(2) 行政特別委員会

平成 24 年 12 月 21 日 平成 24 年度行政特別委員会の開催
平成 24 年度事業経過及び収支決算見込み
平成 25 年度事業計画及び事業予算（案）等

(3) 資産運用委員会

平成 24 年 6 月 21 日 平成 24 年度資産運用委員会の開催
基本財産の運用状況と検討

2. 地域振興支援事業

地域産業の担い手の育成、異業種間交流による地域内連携・協力の強化および産業、物産、観光等事業を実施し、地域産業の活性化・複合化をより効果的・効率的に図った。

(1) オールとかち魅力発信連絡協議会 参画(会議参加 4/27)

(2) 道東道とかち連携協議会 参画(総会参加 5/15・会議参加 3/11)

- (3) とちかち観光誘致空港利用推進協議会空港利用部会 参画(会議参加 7/4)

3. 物産振興支援事業

十勝産の農畜産物ならびに加工品の販路拡大を目的とした販売 PR 事業の実施。

- (1) アグリフード EXPO 東京 2012 参加(8/2～3、7 社出展)
- (2) インフォメーションバザール in Tokyo 2012 参画(9/12～13、14 社・団体出展)
- (3) 鎌田まつり 参加(9/23、とちかち財団の取組等 PR)
- (4) とちかち北海道満腹フェスティバル開催(共催、十勝観光連盟主催)
(10/20～21、32 ブース(19 市町村から 40 社・団体出展))
- (5) 北海道十勝・シンガポールプロモーション 参加
(10/29～11/4、とちかち観光誘致空港利用推進協議会 主催)
- (6) FOODEX JAPAN2013 北海道十勝物産館出展(3/5～8、20 社、実行委員会)
- (7) その他参画協力事業
 - ① フードバレーとちかちフェスティバル参画(10/7～8、帯広競馬場)
 - ② 第 18 回オールとちかち大収穫市 協力・提供(11/15～20、同実行委員会主催)
 - ③ 菓子大国とちかちフェスティバル 後援(藤丸主催)
 - ④ とちかちスイーツコンテスト 後援(帯商青年部主催)
 - ⑤ My とちかち推進会議 参画
 - ⑥ その他事業協力(愛の国さくらまつり等)

4. 産業連携支援事業

産学官ならびに企業・支援機関同士の連携を促し、十勝型産業クラスターの形成、十勝ブランド確立に向けた各種事業の展開。

- (1) 産学官連携促進事業

・産学官交流会「ヒューマンネット十勝」の開催

7 月 4 日	テーマ「畜大の復興支援の取組み」	64 名参加
10 月 26 日	テーマ「幕別町」	46 名参加
12 月 6 日	テーマ「十勝川西長いも」	42 名参加
3 月 18 日	テーマ「十勝の発酵食品」	57 名参加

- ・静岡県東部・十勝帯広ビジネスマッチング「食&農」こだわりの逸品展示会 2012 参加(後援、三島信用金庫他 3 金庫主催、十勝から 14 企業・団体参加、11/21 実施)
- ・管内クラスター研究会事業への参加

- (2) 十勝ブランド確立事業

【PR 啓蒙事業】

- ① 八千代牧場まつり出展(6/17、4 工房出展)

- ② 十勝ブランド・スタンプラリー実施(7/21～10/28)
 - ・参加店 33、応募総数 252(内全店制覇 61)、スタンプ総数 4453
 - ・抽選会実施(11/26)
 - ・十勝ブランド商品券配布(11/30、配布枚数 790 枚)
- ③ とかちマルシェ出展(9/1～2、6 工房+パン部会、とかちマルシェ実行委員会主催)
- ④ 星槎大学 40 周年記念式典 商品提供 PR(9/30)
- ⑤ フードバレーとかちフェスティバル PR 出展(10/7)
- ⑥ 帯広市開拓 130 年国内・国際姉妹都市歓迎会 商品提供 PR(10/31)
- ⑦ パンフレット改訂、配布(10/末～)
- ⑧ 北海道職員に対するチーズ斡旋販売(11/8)
- ⑨ ホームページ改定・運営、認証シールの発行
- ⑩ 十勝ブランド学べる大試食会実施予定(1/26・150 名参加)

【認証管理・品質向上事業】

- ① 認証官能検査実施(チーズ 1 回、パン 1 回、菓子 1 回)
- ② 認証品の衛生品質管理実施状況確認(1 月～3 月)

【運営管理事業】

- ① 十勝ブランド認証品 チーズ 6 工房 41 品、パン 15 工房 53 品、菓子 11 工房 33 品
- ② 北海道中小企業応援ファンド助成金交付申請、受諾
- ③ 会議会合開催(総会 1 回、幹事会 2 回、部会 3 回、支援委員会 1 回)
- ④ 新品目検討(調査報告)幹事会開催(2/19)

5. 十勝産業振興センター事業（参考資料－1）

地域企業の食関連機械に関するニーズ収集を強化するため、食関連企業訪問を中心に展開した。また、効率的なニーズ収集を行うため、業界団体の会合への参加や十勝産業振興センターの視察会の実施等、広報・広聴活動を幅広く実施した。相談件数については、前年並み（微増）で推移しているが、機器利用件数や試験分析依頼件数については、それぞれ 2 倍、3 倍と昨年度を上回る顕著な伸びを見せた。また、PLC やマイコンによる電子制御機能を搭載した装置開発に関する技術相談が多く寄せられていることから、人材養成事業の「オンデマンド型技術セミナー」と併せて製品開発技術の指導を OJT の形態で実施し、十勝の企業の技術者に実践的な技術の習得をいただいた。

6. 食品加工技術支援事業（参考資料－2）

試験研究ではビートファイバー、十勝産小麦、大豆ペースト及び地場野菜、畜肉加工食品の味質評価の 4 課題の研究を実施し、3 件（「十勝ボロネーゼ」、「人参発泡酒」、「人

参酢」が商品化にまで至った。また、技術指導、食品加工相談、企業訪問を実施し、特に相談件数については 500 件を超える大幅な増加を示した（昨年度比 1.5 倍）。この中からも 5 件が商品化につながるという実績を得た。平成 23 年度までは、数年来利用効率が横ばいとなっていたことから、本年度の利用効率の大幅な伸びは、「フードバレーとかち」の浸透、さらには PR 普及に力を入れてきたことによるものと考えている。

7. 地域活性化支援事業（参考資料－3）

今年度補助事業で 5 件、受託事業で 7 件の事業を実施してきた。ほとんどが、国及び北海道の事業であり、滞りなく事業を実施した。大きい事業としては文部科学省からの「地域イノベーションクラスター戦略支援プログラム（都市エリア型）」は 5 年間事業であり、今年度で 4 年が終了した。出口を見据えた「元気食構想」の戦略を着実に普及するとともに多くの成果品を輩出してきた。

以 上

平成24年度十勝産業振興センター事業報告

1. 企業相談事業

・平成24年度は効率の良い網羅的なニーズ把握を目的として、業界団体等の会合におけるPR活動と技術的課題収集を実施した。また、新規訪問も引き続き実施し、センターを利活用頂くためのPR活動や技術的課題の収集を実施した。

区分	事業内容																																																																																
技術相談の窓口	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成24年度</th> <th>平成23年度</th> <th>差異</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>相談受付件数</td> <td>339件</td> <td>317件</td> <td>22件</td> </tr> <tr> <td>内訳：</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>知財関係</td> <td>24件</td> <td>26件</td> <td>▲2件</td> </tr> <tr> <td>創業関係</td> <td>4件</td> <td>9件</td> <td>▲5件</td> </tr> <tr> <td>受発注関係</td> <td>8件</td> <td>15件</td> <td>▲7件</td> </tr> <tr> <td>経営関係</td> <td>6件</td> <td>21件</td> <td>▲15件</td> </tr> <tr> <td>技術関係</td> <td>233件</td> <td>195件</td> <td>38件</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>64件</td> <td>51件</td> <td>13件</td> </tr> </tbody> </table> <p>市町村別相談件数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>帯広市</th> <th>音更町</th> <th>上士幌町</th> <th>鹿追町</th> <th>新得町</th> <th>清水町</th> <th>芽室町</th> <th>中札内村</th> <th>更別村</th> <th>大樹町</th> <th>広尾町</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>180</td> <td>11</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>30</td> <td>5</td> <td>38</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <th>幕別町</th> <th>池田町</th> <th>足寄町</th> <th>浦幌町</th> <th>士幌町</th> <th>豊頃町</th> <th>陸別町</th> <th>本別町</th> <th>道内</th> <th>国内</th> <th>合計</th> </tr> <tr> <td>13</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>26</td> <td>6</td> <td>339</td> </tr> </tbody> </table>		平成24年度	平成23年度	差異	相談受付件数	339件	317件	22件	内訳：				知財関係	24件	26件	▲2件	創業関係	4件	9件	▲5件	受発注関係	8件	15件	▲7件	経営関係	6件	21件	▲15件	技術関係	233件	195件	38件	その他	64件	51件	13件	帯広市	音更町	上士幌町	鹿追町	新得町	清水町	芽室町	中札内村	更別村	大樹町	広尾町	180	11	3	3	30	5	38	3	4	2	0	幕別町	池田町	足寄町	浦幌町	士幌町	豊頃町	陸別町	本別町	道内	国内	合計	13	3	2	5	3	0	0	2	26	6	339
	平成24年度	平成23年度	差異																																																																														
相談受付件数	339件	317件	22件																																																																														
内訳：																																																																																	
知財関係	24件	26件	▲2件																																																																														
創業関係	4件	9件	▲5件																																																																														
受発注関係	8件	15件	▲7件																																																																														
経営関係	6件	21件	▲15件																																																																														
技術関係	233件	195件	38件																																																																														
その他	64件	51件	13件																																																																														
帯広市	音更町	上士幌町	鹿追町	新得町	清水町	芽室町	中札内村	更別村	大樹町	広尾町																																																																							
180	11	3	3	30	5	38	3	4	2	0																																																																							
幕別町	池田町	足寄町	浦幌町	士幌町	豊頃町	陸別町	本別町	道内	国内	合計																																																																							
13	3	2	5	3	0	0	2	26	6	339																																																																							
圏域企業等の訪問	<p>① 十勝凍菜会（十勝の冷凍食品関連企業で構成される任意団体）忘年会 2012/12/10開催、15企業（団体）から31名参加</p> <p>② 北海道中小企業家同友会 とかち支部 十勝農商工連携部会 十勝産業振興センター視察会 2013/2/12開催 8社 8名（ほか事務局2名）参加</p> <p>③ 食品関連機械研究会（道総研工業試験場が主催する研究会） 技術講演会 2013/2/21開催、16企業（団体）から29名参加</p>																																																																																

2. 検査分析事業

・安定的な依頼試験の実施体制構築のため、バックアップ要員を育成し、2名体制での運用を開始した。
 ・技術員をトレーニングし、金属材料の研磨、物性試験等への対応を可能とした。
 ・パークゴルフ用品の依頼試験方法を見直し、依頼試験の収支改善を図った。

区分	事業内容																
検査分析の実施	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成24年度</th> <th>平成23年度</th> <th>差異</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>申込件数</td> <td>133件</td> <td>72件</td> <td>61件</td> </tr> <tr> <td>申込試験体数</td> <td>641件</td> <td>416件</td> <td>225件</td> </tr> <tr> <td>申込項目数※</td> <td>3件</td> <td>3件</td> <td>0件</td> </tr> </tbody> </table> <p>※申込項目は、引張強度試験、圧縮試験、パークゴルフ関係の試験</p>		平成24年度	平成23年度	差異	申込件数	133件	72件	61件	申込試験体数	641件	416件	225件	申込項目数※	3件	3件	0件
	平成24年度	平成23年度	差異														
申込件数	133件	72件	61件														
申込試験体数	641件	416件	225件														
申込項目数※	3件	3件	0件														
設備機器の開放	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成24年度</th> <th>平成23年度</th> <th>差異</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>使用申込件数</td> <td>146件</td> <td>79件</td> <td>67件</td> </tr> <tr> <td>使用時間数</td> <td>462時間</td> <td>301時間</td> <td>161時間</td> </tr> </tbody> </table> <p>主な利用機器： 万能材料試験機、恒温恒湿室、ベルトサンダー、高速切断機、走査電子顕微鏡、エネルギー分散型X線分析装置、研磨機、3DCADシステム等</p>		平成24年度	平成23年度	差異	使用申込件数	146件	79件	67件	使用時間数	462時間	301時間	161時間				
	平成24年度	平成23年度	差異														
使用申込件数	146件	79件	67件														
使用時間数	462時間	301時間	161時間														

3. 試験研究事業

・テーマ①～④について、企業等のニーズに基づいた製品開発を進めている。このうち①については豆類振興事業（日本豆類基金協会）から1,550千円の補助を受け実施した。④については食関連知の地域づくり推進事業（北海道立総合研究機構）から7,303千円の委託研究費を受け実施した。
 ・これらのうち、②④はH22の企業訪問の結果ニーズが顕在化したテーマである。

区分	事業内容
研究開発の実施	<p>① 色彩選別機の新規選別機能の開発（全3年中の3年目）</p> <p>② ブロッコリー加工装置の開発（全2年中の2年目）</p> <p>③ 農業機械UIに適用可能な汎用UIの開発（全2年中の1年目）</p> <p>④ 太陽光エネルギーで走行する農業機械の開発（全2年中の2年目）</p>

4. 人材養成事業

- ・開業当初から開催している3次元CAD講習会（導入編、応用編）については引き続き受講希望者が多く、全3回とも定員（導入編5名・応用編6名）で開催した。
- ・H23までの企業訪問の結果ニーズが顕在化した2D-CAD、PLC、マイコンの技術セミナーについて、利用者の希望する開催時期・実施内容で開催する「オンデマンド型技術セミナー」を新たに企画し開催した。

区分	事業内容
技術等講習会の開催	
圏域の技術者の技術力向上を狙った技術講習会や実用法務研修などを開催する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「3次元CAD講習会～導入編」 H24. 5. 29～H24. 8. 28 5名 ・「3次元CAD講習会～応用編」 H24. 11. 12～H25. 2. 4 6名 ・「3次元CAD講習会～導入編」 H24. 12. 6～H25. 2. 28 5名 ・金属材料の硬さ試験（講義・実習） H24. 9. 5 3名 ・【オンデマンド型技術セミナー】 2D-CAD H24. 4. 17～H24. 4. 27 3名 ・【オンデマンド型技術セミナー】 2D-CAD H24. 7. 20 4名 ・【オンデマンド型技術セミナー】 PLC H24. 9. 21 2名 ・【オンデマンド型技術セミナー】 2D-CAD H24. 10. 4～H24. 10. 5 1名 ・【オンデマンド型技術セミナー】 マイコン H24. 11. 14～H25. 5. 20 3名

5. 情報提供事業

- ・十勝産業振興センターのホームページを運用し、事業活動等に関する情報を開示した。
- ・メーリングリストを活用し、イベント開催案内や求人情報等を広範に周知した。
- ・十勝産業振興センターの成果品を展示する展示スペースを、センター1Fロビーに新設した。

区分	事業内容
情報提供事業	
十勝産業振興センターのホームページやパンフレット、電子媒体により、研究成果、技術情報、事業開催の案内、利用案内等を公開します。	<ul style="list-style-type: none"> ・図書資料の閲覧 ・十勝産業振興センターホームページにおけるセンター事業についての情報を公開中 http://www.tech-tokachi.jp/ ・メーリングリストを活用し「十勝産業振興センターだより」を配信した（全8回） 配信先：当センター利用者や名刺交換させて頂いた方（道内1,693件、2013/3/1現在） ・成果発表会の開催 平成25年2月20日開催

6. 産学連携事業

- ・十勝事業化支援委員会では帯広市のものづくり総合支援補助金に申請された事業計画への助言等を行った。
- ・札幌で開催されたビジネスEXPOでは十勝産業振興センターが関わったブロッコリーフローレットカッターや太陽光エネルギーで走行する長いもプランター等の展示を行い、ビジネスマッチングの機会創出に努めた。
- ・北海道経済産業局の事業を活用した「北海道バイオ産業振興事業」などの取り組みも行った。

区分	事業内容
産学官などの連携を活用した研究開発を実施	
地域のシーズ、ニーズ等を有効に活用し新事業を発掘、提案し新事業の創出を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・十勝事業化支援委員会 第1回開催 (H24. 5. 28) ・十勝事業化支援委員会 第2回開催 (H24. 9. 11) ・十勝事業化支援委員会 第3回開催 (H25. 3. 26) ・成果品の普及拡大 ビジネスEXPO（アクセスサッポロ H24. 11. 8～11. 9） 出展

7. その他

- ・十勝産業振興センターの効果的な運営等を行うための場として運営委員会を設置し2回開催した。
- ・また、知財情報センターサテライトを設置し、企業等からの知財相談に活用した。その他、各種会議等への参加するなど活動した。

十勝産業振興センター運営委員会							
<ul style="list-style-type: none"> ・第1回 平成24年6月12日開催 ・第2回 平成25年3月14日開催 							
その他、行事等への参画など							
<ul style="list-style-type: none"> ・（一社）北海道発明協会が実施する事業への協力業務として、知財情報センターサテライトを設置 ・テクノプラザ帯広への参加 ・農業機械化懇話会への参加 ・フードバレーとかち人材育成事業への協力 等 							
その他、利用状況など							
会議室等利用状況	平成24年度	平成23年度	対比増減	視察対応状況	平成24年度	平成23年度	対比増減
大会議室	204件	197件	7件	件数	11	21	-10
	10,479名	11,305名	-826名		人数	121	247
中会議室	163件	229件	-66件				
	4,853名	3,661名	1,192名				
共同研究室	147件	111件	36名				
	970名	797名	173名				
合計件数	514件	537件	-23件				
合計人数	16,302名	15,763名	539名				

平成24年度食品加工技術支援事業の実績

【食品加工技術センター】

1. 試験研究 ー加工食品の開発及び製造技術改良試験等の実施ー

【試験研究テーマ 4課題】

① ビートファイバーの用途拡大に関する検討	
研究結果	タラすり身に対するビートファイバー添加試験を全て終え、必要なデータを取得し、ビートファイバーを添加することによりタラすり身揚げの水分向上・油分低下・歩留り向上が見込めることを確認した。また酸価・カルボニル価では差が認められなかったものの揚げ油の粘度・色・減少量では差が認められ、揚げ油の劣化抑制および使用量低減の可能性を見出した。
② 十勝産小麦および加工品の特性評価の検討	
研究結果	ボロネーゼソースのレトルト条件を確定し、保存試験（虐待試験）後に無菌試験を行い、賞味期限6ヶ月までは見込めることを確認した。前年度に開発した十勝産小麦の生パスタ製品（道東ライス）については、圏域の食品加工企業と共同で冷凍パスタを検討（近日発売予定）。菓子用小麦については、長期保存によりタンパク質の性質に何らかの影響があることが示唆された。今後は確認試験を行うとともに、他の手法による検討を続ける。
③ 大豆ペーストおよび地場野菜を活用した新商品の開発	
研究結果	ニンジン、カボチャ、ブロッコリーの各ペースト品およびニンジンジュースの製法を確立し、商品化。各商品について品質評価を行い、データを提供。大豆粉末、ペーストを利用した試食品を提供し、大豆餃子については委託先の紹介を行い今後の商品化に向け検討中。ナガイモトロロの粘性保持に効果のある製法を情報提供（賞味期限を検討中）
④ 畜肉加工食品開発に寄与する味質評価方法の開発	
研究結果	嗜好型官能評価を客観的に評価する方法として、味覚センサーの「旨味」と「苦味雑味」を指標とする方法を確立した。味の強弱を評価する絶対型官能評価を客観的に評価する方法としては、味覚センサーの「旨味」と脂質分析による「脂肪分」を指標とする方法が適していると判断した。結論として、官能評価の目的により、客観的評価手法も使い分ける必要があることが示唆された。この結果を協力企業へ報告し、今後の活用を提案することとした。

2. 技術指導 ー企業等の技術開発・課題解決支援ならびに専門技術・知識の普及ー

【食品加工相談室の開設/現地技術指導の実施】

(A) 食品加工相談

相談件数 合計	【内訳】	受付方法			原料区分			
		面接	電話	E-mail等	農産物	畜産物	水産物	その他
529		276	184	69	371	118	16	24
前年度	297	171	104	22	218	60	15	4

【参考】主な相談内容

- ・加工食品の製造条件の設定、成分分析・物性測定の実施手法
- ・加工食品の賞味期限設定に必要な客観試験の実施方法とその評価
- ・自社商品の変色・変敗等に関する原因究明と対処法の検討 など

【参考】市町村別の相談受付状況

区分	帯広	音更	士幌	上士幌	鹿追	新得	清水	芽室	中札内	更別
件数	201	49	16	2	1	31	40	47	14	9

区分	大樹	広尾	幕別	池田	豊頃	本別	足寄	陸別	浦幌	その他
件数	9	0	21	9	2	15	23	2	4	34

(B) 現地技術指導

指導企業数 合計		指導日数 合計		【内訳】	原料区分			
127		127			農産物	畜産物	水産物	その他
前年度	97	前年度	97		89	29	1	8
前年度	39	前年度	39	3	16			

【参考】主な指導内容

- ・ 製造施設及び工程のチェックによる衛生管理上の原因究明
- ・ 新規機能性素材を配合した新製品の開発に関する検討
- ・ 加工食品の安定製造に向けた条件の検討及び工程の確立

【参考】市町村別の現地技術指導状況

区分	帯広	音更	士幌	上士幌	鹿追	新得	清水	芽室	中札内	更別
企業数	41	11	1	1	6	0	13	13	11	1
日数	41	11	1	1	6	0	13	13	11	1

区分	大樹	広尾	幕別	池田	豊頃	本別	足寄	陸別	浦幌	その他
企業数	1	0	16	3	0	2	6	0	1	0
日数	1	0	16	3	0	2	6	0	1	0

【研究員の講師・アドバイザー派遣】

区分	件数
講師派遣	16
パネラー派遣	1
相談対応	1
アドバイザー対応	1

3. 人材養成 — 食品加工・商品開発・品質管理等に関する技術者の養成 —

【専門性の高い技術者育成セミナー等の開催】

開催日	開催場所	演題・内容・講師等	出席者数
H24. 5. 15 H24. 5. 17	食品加工 技術センター	「実践、微生物検査の基礎（初級編）」 講師：研究開発課 係長 川原 美香	7名
H24. 5. 22 H24. 5. 24	食品加工 技術センター	「実践、微生物検査の基礎（初級編）」 講師：研究開発課 係長 川原 美香	6名
H24. 6. 26 H24. 6. 28	食品加工 技術センター	「実践、微生物検査の基礎（中級編）」 講師：研究開発課 係長 川原 美香	8名
H24. 9. 25	食品加工 技術センター	北海道産食材の抗酸化活性に関するセミナー 「旭川医科大学抗酸化機能分析研究センターの取り組み」 講師：国立大学法人旭川医科大学 医学部 教授 若宮 伸隆 氏	29名
H24. 11. 17	帯広東急イン	地域資源高付加価値化研究会 演題1「機能性食品と『とち元気食』」 講師：帯広畜産大学 特任教授 伊藤 繁 氏 演題2「風味及び製品色を向上させた乾燥農産物の設計技術」 講師：（公財）函館地域産業振興財団 研究開発部 応用技術支援グループ 主査 小西 靖幸 氏	87名

開催日	開催場所	演題・内容・講師等	出席者数
H24. 11. 29	食品加工技術センター	食品表示の基礎に関するセミナー 「食分表示の基礎 ～食品表示の為の基礎と事例紹介～」 講師：財団法人日本冷凍食品検査協会 札幌検査所 検査課 小熊 裕和 氏	34名
H24. 12. 10	食品加工技術センター	地域バイオ育成講座「異物混入防止技術の最前線」 (NPO法人北海道バイオ産業振興協会との共催) 演題1「食品等の異物検査」 講師：(財)日本食品分析センター 千歳研究所 業務課 主任 福岡 里菜 氏 演題2「簡単！異物混入対策品のご紹介」 講師：アズワン(株) サニーフーズグループ 主事 味波 洋 氏	33名

【技術研修生の受け入れ】

受入期間	依頼企業等の業種	受入人数	研修内容等
H24. 10. 23 ～H24. 10. 26	冷凍食品加工業	1	大腸菌検査技術の習得

4. 技術交流 ー食品加工・商品開発・品質管理等に関する技術交流活動の実施ー

【技術研究会の実施（事務局担当による支援）】

・十勝圏地域食品加工技術者の会

開催日	開催場所	開催内容等	出席者数
H24. 7. 30	食品加工技術センター	今年度の活動内容についての要望把握及び意見交換 会員が抱える課題の提示及び解決に向けての意見交換 など	14名
H24. 9. 28	本別町農産物ものづくり館	本別町農産物ものづくり館「ゲンキッチン」施設見学 本別町の食品加工に関する取り組み紹介及び意見交換 など	12名
H25. 3. 15	食品加工技術センター	加工食品や原材料の品質検査に関する情報交換 次年度の実施内容（実施したい活動）に関する意見交換	8名

・十勝圏ナチュラルチーズ品質管理研究会

開催日	開催場所	開催内容等	出席者数
H24. 9. 3	食品加工技術センター	ナチュラルチーズの品質管理・製造等に関する勉強会及び意見交換 【会員からの話題提供】 「とちふれっしゅ」販売までの取り組みについて 情報提供者：(株)あしよる農産公社 山岸 真 氏	16名
H25. 3. 18	帯広畜産大学	HACCP対応の乳製品加工実習設備の見学 ・見学先：帯広畜産大学 食品加工実習施設 ・説明者：同大学 准教授 中村 正 氏 ナチュラルチーズの製造及び品質管理に関する情報提供・意見交換	12名

【とち財団が実施・支援する産学官連携・販売促進等の事業における技術交流】

・とちABCプロジェクト（文部科学省 地域イノベーション戦略支援プログラム）

開催日	開催場所	開催内容等
H24. 6. 6	食品加工技術センター	可能性試験（小豆ポリフェノール）開発会議
H24. 7. 10	ホテル日航ノースランド帯広	とちABCフォーラム 2012 ～食の機能性・安全性に関する高度な技術開発とその事業化～ [研究員による発表]（平成23年度成果報告） 「健康機能性と品質特性による食品付加価値向上」 発表者：研究開発課 課長 葛西 大介
H24. 7. 30	十勝産業振興センター	第1回事業推進委員会

開催日	開催場所	開催内容等
H24. 7. 31	帯広東急イン	第1回事業化・知財ワーキンググループ会議
H24. 8. 6	食品加工技術センター	チョコリ栽培関係会議
H24. 10. 26	帯広畜産大学	テーマ1「農畜産物および加工副産物からの新規機能性素材の開発」に関する平成24年度研究会
H25. 1. 22	帯広信用金庫中央支店	第1回外部評価委員会
H25. 2. 1	ホテル日航ノースランド帯広	第2回事業化・知財ワーキンググループ会議
H25. 2. 14	帯広ワintonホテル	第2回事業推進委員会

・十勝ブランド認証機構（チーズ・パン・菓子製品に係る地域ブランド認証）

開催日	開催場所	開催内容等
H24. 6. 19	十勝産業振興センター	ナチュラルチーズ認証に係る官能検査（食味試験） ・一般消費者モニター検査における「チーズの評価」に関する解説
		パン認証に係る官能検査（食味試験） ・一般消費者モニター検査における「パンの評価」に関する解説
H24. 6. 26	十勝産業振興センター	パン部会（会合出席）
H24. 6. 28	十勝産業振興センター	ナチュラルチーズ認証に係る官能検査（食味試験） ・専門家検査における検査員対応
H24. 7. 24	十勝産業振興センター	パン部会（会合出席）
H25. 1. 26	とちかち館（帯広市）	十勝ブランド 学べる大試食会（普及啓発イベント出席）

・地域資源高付加価値化研究会（経済産業省 地域新成長産業創出促進事業）

開催日	開催場所	開催内容等
H25. 3. 16	帯広東急イン	「食物繊維と『とちかち元気食』」 演題1「難消化性成分の健康機能性」 講師：帯広畜産大学 教授 福島 道広 氏 演題2「ホエイミルククリームの特徴」 講師：研究開発課 課長 葛西 大介 演題3「おいしい健康機能食の秘密」 講師：Restaurant et café オランジュ オーナーシェフ 渡辺 雄二 氏

5. 情報提供・成果普及等 — 技術支援・研究開発成果の普及及び施設認知度向上・利活用促進活動 —

【成果発表会の開催】

開催日	開催場所	開催内容等
H25. 2. 20	十勝産業振興センター	(財) 十勝圏振興機構 平成24年度成果発表会 (試験研究テーマに係る成果発表)

【展示会等への出展】

開催日	開催場所	開催内容等
H24. 8. 2 ～H24. 8. 3	東京 ビッグサイト	アグリフードEXPO東京2012 (主催：株式会社日本政策金融公庫) ・前年度試験研究テーマ (十勝産小麦を用いた加工食品の開発) において開発した商品 (もちもち生パスタ：道東ライス株式会社) に関する市場調査
H24. 10. 3 ～H24. 10. 5	東京 ビッグサイト	国際食品開発展2012 (主催：UBMメディア (株)) ・とちABCプロジェクトの取組紹介と試作品の市場調査 (あずきオーレ、牛肉のからすみ、ベタイン製剤HMC-No. 1、ホエイヌリンクリーム)
H24. 11. 8 ～H24. 11. 9	アクセスサッポロ	26th 北海道 技術・ビジネス交流会 ビジネスEXPO ・とちABCプロジェクトの取組紹介と試作品の市場調査 (あずきオーレ、抹茶オーレ、牛とろの熟成パテ、ホエイヌリンクリーム)

【ホームページの公開・運営】

ホームページアドレス	公開内容 (随時更新)
http://www.food-tokachi.jp/	施設概要、業務内容、前年度事業報告、試験研究成果 設備機器紹介、各種書式のダウンロード等
十勝の食材データベース	公開内容 (随時更新)
http://tech-tokachi.jp/food/index.php	十勝圏域の業務用食材と取り扱い企業の紹介 平成24年5月30日より一般公開

【記者発表】

商品名	発表日	発表場所	発表企業
牛肉のからすみ 牛とろの熟成パテ	H24. 11. 5	食品加工技術センター	(有) 十勝スロウフード
あずきオーレH&S	H24. 11. 19	食品加工技術センター	(株) 江戸屋 (社) 帯広物産協会

【他機関等主催行事への参画件数】

50

【学会等への発表】

発表日	学会等の名称	発表テーマ名
H24. 8. 30	日本食品科学工学会 第59回大会 (開催地：札幌市 藤女子大学)	「ヨモギのフレーバー成分の特性と機能性評価」 発表者：研究開発課 係長 川原美香

【専門誌への寄稿等】

掲載年月日	掲載誌等の名称	寄稿テーマ名・寄稿者
H24. 10. 15	「日本食品科学工学会誌」 第59巻 第10号 (日本食品科学工学会)	「北海道十勝産ナガイモの栄養成分、アミラーゼ力価 およびスーパーオキシドアニオン消去活性」 国立大学法人帯広畜産大学 木下幹朗 帯広大谷短期大学 山崎民子 (財) 十勝圏振興機構 川原美香 など
H24. 11. 15	(社) 農林水産・食品産業技術 振興協会ホームページ 産業支援サイト	「ビートから抽出した天然アミノ酸素材『ベタイン』 利用の可能性」 http://www.agri-renkei.jp/news/2012/09/05-01.html

6. 試験分析（北海道委託）

－利用者からの依頼による食品成分や微生物検査等の試験分析、及び公的機関としての成績書発行－

項目数 合計		【内訳】	区分		
			依頼試験	依頼分析	謄本発行
43			30	13	0
前年度	40	前年度	16	24	0

【参考】依頼内容

- ・依頼試験：一般生菌数、大腸菌群、耐熱性菌数、糖度測定
- ・依頼分析：灰分、水分、たんぱく質、脂質、無機質、無脂乳固形分析

【参考】市町村別の試験分析依頼件数及び項目数

区分	帯広	音更	士幌	上士幌	鹿追	新得	清水	芽室	中札内	更別
依頼件数	6	4	0	0	0	0	0	1	0	3
項目数	15	7	0	0	0	0	0	1	0	11

区分	大樹	広尾	幕別	池田	豊頃	本別	足寄	陸別	浦幌	その他
依頼件数	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
項目数	0	0	4	5	0	0	0	0	0	0

7. 指定管理事業（北海道より指定管理者の指定を受けて実施 平成22年度～平成25年度）

北海道立十勝圏地域食品加工技術センターの設置目的（地域における食品加工技術の高度化を促進し、北海道の食品工業の発展に寄与する）を達成するため、施設等の適切な保守管理を行い、利用者へのサービス向上を図るとともに、設備利用等の促進活動を実施した。

(1) 利用提供業務

センターに設置されている試験機器等を広く食品企業等に開放し、適切な利用指導を行うと共に、加工・分析等の技術支援や情報提供を実施した。

利用件数		利用時間数		【内訳】	利用件数		利用時間数	
					機器等	研修室	機器等	研修室
258		482			256	2	478	4
前年度	279	前年度	637	前年度	268	11	581	56

【参考】市町村別の施設利用件数及び時間数

区分	帯広	音更	士幌	上士幌	鹿追	新得	清水	芽室	中札内	更別
申込件数	19	1	0	0	0	2	4	6	1	3
利用件数	48	4	0	0	0	5	29	11	2	66

区分	大樹	広尾	幕別	池田	豊頃	本別	足寄	陸別	浦幌	その他
申込件数	0	6	1	1	1	2	2	0	0	2
利用件数	0	18	1	1	14	4	45	0	0	10

(2) 利用提供業務

試験機器等の利用促進を図るため、ホームページやパンフレット等により施設概要や利用方法等に関する情報を提供するとともに、来館者や見学希望者への適切な施設紹介・PRを実施した。

- ・視察見学による来館状況 10件・191人
 （主な視察者）道内各自治体の議員団による行政視察
 十勝圏域の各種団体（農業協同組合など）
 教育機関（帯広畜産大学） ほか

(3) 利用提供業務

利用者が快適に施設を利用できるよう、下記により施設の適切な保守管理を実施した。

- ・施設の機能を常時発揮させるための保守点検、法定点検、修繕等の実施
- ・施設の衛生管理及び美観確保を図るための清掃等の実施
- ・施設の安全確保を図るための定期的な巡回、利用状況把握、異常有無確認等の実施

平成24年度 地域活性化支援事業の実績（受託・補助事業等）

補助事業

文部科学省、北海道経済産業局、（財）日本豆類基金協会等、国の機関や公益団体から補助等を受け、食品の機能性・安全性の検討、産業用機械の開発、産学官連携・クラスター形成等の事業を実施した。

	補助等団体名	事業名	事業内容・目的	実施期間	補助金等
1	北海道経済産業局	広域的新産業支援連携等事業	道内のバ イオクラスター活動との連携を図り、産学官連携ネットワーク構築を推進し、新製品の開発・新産業の創出を図るとともにバ イオテクノロジーの利活用促進を図る。	平成24年5月1日～平成25年3月31日	1,530,300
2	財団法人 日本豆類基金協会	高性能かつ低コストを実現する豆類用光学選別装置の開発	多種多様な豆類の自動選別を低コストで実現可能な光学選別装置を開発し、これら豆類の低コストな生産や流通を実現することにより、我が国豆類の生産と消費の振興に資する。	平成24年4月1日～平成25年3月31日	1,550,000
3	財団法人 日本豆類基金協会	小豆の香り成分の特性と評価	GC-MSを用いて小豆が持つ香り成分を解析することにより、品質成分の指標となり得る成分を検索し、それをもとに評価技術の確立を行うことで、我が国における小豆の生産・流通・加工に関する産業振興に資する。	平成24年4月1日～平成25年3月31日	1,500,000
4	文部科学省	地域イノベーション戦略支援プログラム（都市エリア型）	地域の農畜産物及び加工副産物から機能性素材の抽出技術を確立、及び素材の機能性を解明する。また、地域の農畜産物及び二次加工品の食中毒菌検出のための簡易測定技術を開発する。これらの高度な技術開発とその事業化により、地域で、「高付加価値で競争力のある」食品産業群を中心とした十勝型のバ イオクラスター形成を目指す。	平成24年4月1日～平成25年3月31日	195,968,497
5	北海道				1,983,969
	帯広市				1,983,969
補助事業 計					204,516,735

受託事業

北海道、帯広市、地方独立行政法人北海道立総合研究機構等から事業を受託し、加工食品や農業機械の新技術・新製品開発や、中小企業の経営改善・新事業展開に関する支援等を実施した。

	委託団体名	事業名	事業内容・目的	実施期間	委託料
1	北海道	地域経済活力向上支援事業	十勝圏における中小企業の早期再生及び新事業展開を支援する	平成24年4月1日～平成25年3月31日	4,491,235
2	北海道	地域中小企業経営力強化特別対策事業	十勝地域における中小企業の経営改善・事業再生など、経営力の強化に係る支援事業を行う。	平成25年3月1日～平成25年3月31日	328,026
3	地方独立行政法人 北海道立総合研究機構	食関連「知の地域づくり」推進事業	太陽光エネルギーで走行する農業機械の要素技術の開発及び高出力新型機種の開発	平成24年4月1日～平成25年1月15日	7,303,990
4			地場産小麦の加工適性評価に基づく加工食品の開発		3,009,595
5	公益財団法人 北海道科学技術 総合振興センター	十勝地域における食関連産業の海外展開・低未利用資源利活用に係るコーディネート業務	北海道の地域特性にあった海外展開事例の創出や低未利用資源等の発掘と利活用の促進を図るため、十勝地域において、新商品開発や販路拡大等を行う「食のコーディネート」を行うコーディネーターを配置する。	平成24年5月1日～平成25年3月31日	1,800,000
6	帯広市	とかちの「食」PR	「十勝ブランド認証」等をはじめ、展示会、物産展等での十勝帯広の「食」の「安心安全」のPRや、高付加価値化を目指した試作等の開発プロジェクトの円滑化、市場開拓など、とかちの食分野の取組みを広くサポートする人員を配置する。	平成24年4月1日～平成25年3月31日	4,788,000
7	日本データサービス (株)	走行モニター車用E10の受入れ等業務	北海道が「E10走行モデル事業」を委託する事業者から、E10の受け入れ作業、E10給油用の計量機への充填作業等、一部業務を請負う。	平成25年1月15日～平成25年3月28日	214,660
委託事業 計					21,935,506

合 計					226,452,241
-----	--	--	--	--	-------------